

〔報告〕

令和五年度尾道市立大学学長裁量教育研究費による

「尾道の「顔」―町としてのイメージ形成」ミニ報告会

藤本真理子 森本 幾子
吉田 宰

はじめに

二〇二三年一月二日―四日、学長裁量教育研究費の助成を受けている「尾道の「顔」」研究会のミニ報告会を行った。当日は、学部やゼミを越えて学生一〇名の参加があった。本稿では、まず当日の内容について、報告者からその概要を示す。なお、この研究会の研究内容についての詳細は、別稿で示す予定であるため、本稿は、研究会の趣旨および主な活動、そしてミニ報告会の流れに沿って当日の様子を伝えることを目的とする。

「尾道の「顔」」研究会の紹介

令和五年度尾道市立大学学長裁量教育研究費の助成を受け、尾道の「顔」研究会を立ち上げた。この研究の目的は、尾道の町のイメージがどのように形成されてきたのかを明らかにすることを目的としている。尾道は、現在、「坂のまち」や「猫のまち」など、さまざまに表象される。これらには、「猫のまち」が尾道市以外にも全国多数に見られることなどから、「観光」的側面の影響が多分にあると考えられる。また地形・景観など実際の町の様相も関わ

ている。

本研究では、江戸時代の寺社参詣や尾道の「名所」の創出にはじまり、近代の「観光」案内の開始、現在の「映画のまち」や「坂のまち」、「猫のまち」といった町の「顔」形成について、その歴史的な変遷や広がりに着目して資料を収集し、調査・分析を行う。これに加えて、フィールドワークを行う。加えて、近世期の資料も扱うことにより、現代では隠れてしまった尾道の顔を掘り起こす、ひいては尾道の魅力を再発見することも目指す。

続いて、本研究会のこれまでの活動を示す。なお、以下、執筆時点では実施前のものも含む。

■六月一五日（木）12時半～13時 第1回打ち合わせ（対面）【内容】コンセプトと今後のイベント等スケジュール確認

■七月一三日（木）18時半～20時 第2回打ち合わせ（オンライン）【内容】ここまでの調査報告、オープンキャンパスに提示のポスターについて

■八月一日（金・祝）オープンキャンパスにてポスター展示【内容】研究会のコンセプトを図式化したポスターを展示した。尾道の町という身近なものを対象とした研究を例に、大学で教

員がどのように研究を進めているかを伝えること、また学部学科を越えて共同研究に取り組んでいる様子をPRすることを目的に作成した。

■一〇月一八日（水）18時半～20時打ち合わせ（対面）【内容】今後のイベントとして①学内報告会 ②企画展示③学外報告会を計画し、具体的な内容と日程調整

■一一月三〇日（木）18時半～20時打ち合わせ（オンライン）【内容】①の学内報告会に向けて報告内容の確認と報告会の流れの確認

■一二月一四日（木）五限 ミニ報告会および学生交流会（対面）【内容】①の学内報告会



テーマ

尾道の町の顔

ラーメン?
レモン??

飲食



坂の町?
海の町??

景観



銀行?商工
会議所??

商業



映画の町?
文学の町?

娯楽



尾道
Onomichi
おのみち

どんな町だろう?



SNS・本

ガイドブックなどに出てくる言葉を調べる方法もあるよ。



町に出て

資料館などを調べたり、アンケートをとったりしてみよう。



歴史

『尾道市史』という本もあるよ。古い新聞を見るのもいいね。



観光

猫の町、寺の町というけれど、他の町はどんな?

藤本真理子（日文）・森本幾子（経情）・吉田宰（日文）

オープンキャンパス展示のポスター

■二月七日（水）学生と尾道のフィールドワーク
【内容】尾道吉源酒造場へ訪問

■二月二十八日（水）～三月九日（土）企画展示（まちなか文化交流館〈Bank〉）で実施予定 【内容】
②の企画展示

■二月二十八日（水）公開研究会（尾道商業会議所記念館2F議場で開催予定）【内容】③の学外
報告会

研究会コンセプトを示したポスター

先に示した本研究の目的に沿って、研究会のイメージを紹介するポスターを作成した（前頁参照）。学部を超えて、地域をテーマにした研究を、共同で行っていることをPRするために、オープンキャンパスにおいて展示を行った。

ミニ報告会の概要

■開催日：二〇二三年二月一日（木）

■開催時間：一六時三〇分～一八時〇〇分

■開催場所：尾道市立大学 C棟2階・C1教室



ミニ報告会の様子

■開催の趣旨と当日の様子

研究で取り組んでいることを授業という形ではなく、ミニ報告会という形式をとり、教員どうしで取り組んできた本研究会の成果について学生に向けて報告をすること、また学料を超えて学生どうしの交流の場となることも期待して行った。

全体の流れ

このミニ報告会では、まず異なる学部やゼミの学生が集まったので、交流を兼ねて自身のゼミや研究でのテーマ、また今回の研究会にどのような興味をもって参加しているかなどについて紹介をしてみた。その後、本研究会の趣旨説明を行い、藤本、吉田、森本の研究についてそれぞれ報告を行った。当日は、一〇人の学生が参加し、活発な質疑も行われた。

〈町の顔」の文献への残り方〉（藤本）

「〇〇の町」という表現で紹介される尾道の特徴について、町の言語景観を手がかりに、尾道の町の「顔」を分析した。また、観光ガイドブック、そして「書きこ」とば均衡コーパス（BCCWJ）」とった

資料を用いて「〇〇の町」について調査した結果を報告した。その他、近代の新聞資料に見える「尾道」が近隣地域との比較の中で一大経済都市としての位置をもっていたことを紹介し、町の顔がメタ的に作られていく側面について述べた。

〈尾道酒の昔と今〉（吉田）

俳諧資料に「尾道酒」という語がみえること、同じく近世期の資料で他にも「尾道酒」という語が確認できることから、かつて尾道に「尾道酒」という一面があったことを指摘した。現代の尾道に「尾道酒」の名残があるかなどについても会の中で議論があった。

〈歴史的背景からひもとくまちの「顔」の形成〉

（森本）

尾道のもつ海のイメージが、時代とともに移り変わっていること、近世から近代にかけての経済・産業にかかわる資料、景観を示す資料を用いて、尾道のまちの「顔」の変化と現在へのつながりについて報告があった。

なお、互いの報告に対して、ミニ報告会の後、質問とコメントのやりとりも行った。

■ 藤本↓吉田

(コメント) 俳諧以外にも、近世の複数の資料に「尾道酒」が見られ、また実はなかなかおいしかったかもしれないというのが興味深かったです。多くの人が取り上げるほど、「尾道酒」が、当時、有名だったのだなと実感させられました。

(質問) 尾道酒を詠み込んだ俳諧について、もともと「一人かも寝む」で助詞であった「かも」ですが、江戸時代ごろには『和英語林集成』(初版)に「ネムリヲ Kamosz (カモス)」とあるように、「酒」の「かもす」イメージと「眠りをかもす」などが結びつくような点もあったのだろうかと気になりました。

また、「尾道酒」以外で他にこういった俳諧資料などで「〇〇酒」としては何かあがるものがあるか、「〇〇酒」でなくても名産的なものに他に何か読み込まれたりしているかどうか調べてみるとよいかもしれません。それが有名なものであれば、さらに「尾道酒」の知名度がわかりそうです。

■ 吉田↓森本

(コメント) 近世から近代にかけての様々な史料を駆使しつつ、尾道の歴史的な「顔」に迫った内容で、大変興味深く拝聴しました。とくに瀬戸内海地域での製塩業の発達および広島城下町などの都市建設によつて木材の需要が高まり、その結果、広島県域の海岸付近では森林伐採が進んでいたことが印象的でした。現在の尾道は風光明媚な町と形容されることがありますが、歴史的にはそれとは逆の一面も持ち合わせていたことが驚きでした。

(質問) 近世中期から近代初期にかけて、広島県全域と山口県東部の人口が飛躍的に増加していることから、それだけ広島地域を中心とする瀬戸内経済が大きく発展していたとのご説明に関して、2点質問があります。

一点目。人口増加の背景に先の森林伐採も影響しているのでしょうか。つまり、森林伐採によつて土地が拓け、それにより人々が住むことのできるスペースが生まれ、居住地の拡大および人口の増加へとつながったのかどうか気になりました。

二点目。人口増加の内訳として、他地域からの人口流入による部分が大きいのか、それとも土着人口

自体の増加による部分が大きいのが気になりました。また、もし前者の場合、なぜ広島地域を中心に多くの人が流入してきたのか、その要因も気になるところです。

■ 森本↓藤本

(コメント) 普段何気なく目している看板、標識、飲食店名などに表記されている「尾道」が、「尾道」、「おのみち」、「オノミチ」、「ONOMICHI」と使い分けられることによって、「ことば」からイメージされる表象がそれぞれ異なる点は大変興味深いところでした。

(質問) 大正期の『神戸大学新聞記事文庫』引用箇所「(二十二)・尾道地方の産業状態を単に尾道の取扱貨物に依って憶測するのは早計の感は免れないが要するに同地方の産業は漸次減退するものである」と思うのである。「(二十三) 福山駅の一ヶ年に於ける発着貨物は約十一万噸漸次発展し尾道の商業勢力は近時福山に奪わるるような感がある」と記載がありますが、このような状況(尾道から福山周辺への備後経済の中心地が移動?)の背景として、どのようなことがあったのかを明記すると面白いか

もしれません。

例えば、これまでの近世期に隆盛を極めた海運業から近代の鉄道に交通インフラの重心が少しずつ変わったことなどがあり、それに伴って「町」のイメージも少しずつ変容しているのかもしれない。近代になると「瀬戸内海地域」としてパノラマ的に地域が認識されるようになるので、そのなかで尾道が他の地域と比較(競合)されやすくなることも考えられます。時代の変遷にともなう「経済」「産業」での相対的な地域の低下を、歴史的に蓄積された「文化」「芸術」によって盛り返すところも尾道の特徴なのかなと思います。

■ ミニ報告会参加学生からの声

以下、このミニ報告会へ参加した学生のアンケートの一部を紹介する。

- ・尾道についてまだまだ知らないことが多いことを痛感しました。先生方がそれぞれの専門分野から尾道を研究するからこそその面白さを感じることができました。

- ・「尾道酒」の名産としての価値はよくわかりまし

たが、今後文学研究の観点からどのようなように、尾道の町の「顔」研究が進んでいくか興味があります。

- ・尾道の町を日本語学の観点から考える場合、方言以外に看板の表記などを対象にすることもできることがわかってよかったです。

- ・過去の文献を通じて「尾道」という町のイメージ形成を探ることで、文化的・風土的にどのような歴史を辿ってきたのかを垣間見ることができて興味深かったです。今回の報告会を聞いていて、ふと、「尾道市は国宝4点をはじめとして、全国的にも群を抜いて文化財が多い地域だけれど、立地や交通の不便を理由に（千光寺以外の）観光客が少ない」と、前に市の職員の方が仰っていたことを思い出しました。今はあまり知られていない尾道の「顔」を知るために、当時の資料と比較しながらいつか町歩きをしてみたいです。余談ですが、「建築環境論」の講義でフィールドワークをしたときに、階段の一段分が一本石から成っていることに着目して、「尾道が」これだけ大きな石を採掘できる土地柄であること、「加工に優れた石工がいたこと」を学んだのを思い出しました。森本先生が尾道の石工についてお話されていたので、

何か結びつくものがあるかもしれません。

- ・様々な視点から尾道の魅力を再発見する事ができて貴重な経験でした。特に尾道の表記に関するお話が興味深かったです。考えてみると確かに *onomichi* は視覚的にリズムが良く、オブリジェなどの立体作品に適していると思いました。

- ・大学生になって初めて来た土地である尾道について詳しく知ったり、他学部他学科・他学年の方との関わりができたりする場に参加でき、非常に楽しかったです。藤本先生のご発表では、特に尾道の言語景観の特徴というお話が印象に残りました。看板などを見かけたとき、デザインはよく意識しますが、「おのみち」なのか「ONOMICHI」なのかというような表記の違いは気にしたことがなく、新たな視点を得られました。観光地として知られる地域ではローマ字表記が多いと思っていたのですが、横浜や神戸等と比べてそこまで多くないということが意外でした。吉田先生のご発表では、はじめに掲載されている『犬子集』の和歌のパロディもとが、『百人一首』に興味を持っている自分にとってなじみのある和歌で驚きました。また、尾道の名産品がお酒だという印象は全

まとめ

今回、この研究を立ち上げた目的に、地域とつながること、そして学生とつながること、さらに学生どうしがつながることというものがあつた。このミニ報告会は、学生に向けて、報告者が各自の分野に即しつつも、協働して、どのような研究方法や態度で資料に接しているかを見せる一つの機会になつたと考える。

本研究は、令和五年度尾道市立大学学長裁量教育研究費の助成を受けたものです。

— ふじもと・まりこ 日本文学科准教授 —
— もりもと・いくこ 経済情報学科准教授 —
— よしだ・つかさ 日本文学科講師 —

くなかつたのですが、自分が想像していたよりも多くの資料に「尾道酒」と残っていることがわかり、面白く感じました。森本先生のご発表は、メモを取りながらお聞きしていたのですが、どうしても理解が遅れてしまいました。そのため、もし可能であれば、何らかの形で資料をいただけると幸いです。様々な学生さんや先生方との交流を通し、日本文学科的な視点に限らず、別の視点からも尾道のことを知っていきたいと思います。

- ・ 関連性はあるつつも、異なる視点から尾道の様相について研究されていて興味深かつた。
- ・ 同じ「尾道」についての研究でも、集める資料や着眼点が様々で、しかしその中に共通点も感じられるというのが面白かつたです。吉田先生の報告について、尾道酒というのが特産だつたというお話を聞き、尾道造酢と何か関連があるかもしれないと感じました。同じ蔵で発酵させて作る食品のため、現在残っているお酢からお酒に繋げることもできるのでは無いかと思いました。